

- 1) 高屋憲一, 宮田堅司: 新鮮伸展標本を用いた人毛球メラニン顆粒のX線微小分析, 日本解剖学会第83回総会, 1978. 4, 宇部.
- 2) 木村通郎, 高屋憲一: 正常モルモット真皮の塩基好性白血球の光顕ならびに電顕的観察, 日本解剖学会第83回総会, 1978. 4, 宇部.
- 3) 宮田堅司, 藤岡厚子, 高屋憲一: 細網組織の肥満細胞, 日本解剖学会第83回総会, 1978. 4, 宇部.
- 4) 高屋憲一, 宮田堅司, 星野徹: マウス脳のマグネシウムの分布・新鮮凍結乾燥超薄切片によるX線微小分析, 日本電子顕微鏡学会第34回学術講演会, 1978. 6, 札幌.
- 5) 宮田堅司, 藤岡厚子, 木村通郎, 高屋憲一: 肥満細胞の隣接細胞, 日本電子顕微鏡学会第34回学術講演会, 1978. 6, 札幌.
- 6) 高屋憲一: 新鮮伸展標本を用いたX線微小分析・脳のマグネシウムの分布, X線微小分析ゼミナール, 1978. 7, 岐阜.
- 7) 高屋憲一: 新鮮伸展標本を用いたX線微小分析細胞顆粒のマグネシウムとカルシウムシンポジウム, 第19回日本組織細胞化学会総会, 1978. 11, 岐阜.
- 8) 木村通郎: PHA感作によるモルモット所属リンパ節の好塩基球の浸潤, 日本解剖学会第38回中部地方会, 1978. 12, 岐阜.
- 9) 宮田堅司, 高屋憲一: 脊椎動物肥満細胞のalcian blue-safranin 染色, 日本解剖学会第38回中部地方会, 1978. 12, 岐阜.

3. 原著

- 1) 高屋憲一: 新鮮伸展標本によるX線微小分析, 代謝, **15**(3): i-ii, 1978.
- 2) Fujioka, A. and Ogawa, K.: Ultracytochemistry of the cell membrane. I. The demonstration of intramembranous amino groups in rabbit erythrocytic membrane by the hydroquinone-tetranitroblue tetrazolium system. *Acta Histochem. Cytochem.* **11**(2): 212-227, 1978.

4. 抄録

- 1) Takaya, K. and Miyata, K.: Mitochondrial dense granules in fresh air-dried tissue spreads are osmiophilic. *Acta Histochem. Cytochem.* **11**(1): 109, 1978.
- 2) 高屋憲一, 宮田堅司: 新鮮伸展標本を用いた人毛球メラニン顆粒のX線微小分析, 解剖学雑誌 **53**(1): 49, 1978.
- 3) 木村通郎, 高屋憲一: 正常モルモット真皮の

塩基好性白血球の光顕ならびに電顕的観察, 解剖学雑誌 **53**(1): 49, 1978.

4) 宮田堅司, 藤岡厚子, 高屋憲一: 細網組織の肥満細胞, 解剖学雑誌, **53**(1): 100-101, 1978.

5) 高屋憲一, 宮田堅司, 星野徹: マウス脳のマグネシウムの分布新鮮凍結乾燥超薄切片によるX線微小分析, 日本電子顕微鏡学会第34回学術講演会講演予稿集 **34**: 47, 1978.

6) 宮田堅司, 藤岡厚子, 木村通郎, 高屋憲一: 肥満細胞の隣接細胞, 日本電子顕微鏡学会第34回学術講演会講演予稿集 **34**: 163, 1978.

7) 高屋憲一, 木村通郎, 宮田堅司, 藤岡厚子: 新鮮伸展標本による人血小板のX線微小分析, 解剖学雑誌 **53**(4): 320-321, 1978.

8) Takaya, K., Miyata, K. and Hoshino, T.: Magnesium distribution in the mouse brain studied by energy and wave dispersive X-ray microanalysis using fresh air-dried spreads and fresh frozen-dried ultrathin sections. *J. of Electron Microscopy* **27**(4): 339-340, 1978.

9) Miyata, K., Fujioka, A., Kimura, M. and Takaya, K.: Cells in contact with mast cells in intestinal lamina propria, thyroids and lymph nodes of rat and guinea pig. *J. of Electron Microscopy* **27**(4): 369, 1978.

10) 高屋憲一: シンポジウム, 新鮮伸展標本を用いたX線微小分析, 第19回日本組織細胞化学会総会抄録集 **19**: 28, 1978.

11) 木村通郎: PHA感作によるモルモット所属リンパ節の好塩基球の浸潤, 日本解剖学会第38回中部地方会予稿集 **38**: 25, 1978.

12) 宮田堅司, 高屋憲一: 脊椎動物肥満細胞のalcian blue-safranin 染色, 日本解剖学会第38回中部地方予稿集 **38**: 26, 1978.

生 理 学 (1)

教授 川 崎 匡
 助教授 本 間 信 治
 助手 佐 藤 悠
 助手 岡 田 美保子

1. 研究概要

- 1) 前庭動眼反射に対する視覚性抑圧に関する神経機構を明らかにすることを目的とし,
 - (a) 猫を使用し, 脳幹網様体諸核と小脳片葉との

神経繊維連絡についての生理学および組織学的な同定。

(b) 慢性実験において、猫の眼球運動の利得調節に関する脳幹諸核の機能の解明を目指している(川崎, 佐藤)。

2) 系統発生的に重要な位置を占めるヤツメウナギ(円口類)の神経系の形態と機能の解明を目的とし、

(a) 呼吸運動に関連したニューロンの同定

(b) 脊髄内ニューロンのシナプス結合様式

(c) 同定されたニューロンのアミノ酸感受性

(d) ヤツメウナギ脊髄, ネコ脊髄の伝達物質の定量などよりヤツメ神経系の構造機能の特殊性と普遍一般性を探索している(本間)。

3) 小型計算機による対話型ファイル処理システムの開発およびマイコンの医療情報処理への応用に関する研究を行っている(岡田)。

2. 学会報告

1) 川崎匡, 加藤功, 佐藤悠: 温度性眼振に対する視覚性抑圧に関与する小脳片葉への神経経路について, 第55回日本生理学会, 1978. 4, 新潟。

2) 本間信治, 鈴木俊雄, 村山智, 大塚正徳: 大動脈血流の一時的遮断による固縮ネコ脊髄のアミノ酸とP物質, 第55回日本生理学会, 1978. 4, 新潟。

3) 佐藤悠, 川崎匡, 加藤功, 水越鉄理, 早野信也: 視覚介入による温度性眼振の抑制解除現象の発現機序, 日本耳鼻咽喉科学会, 1978. 5, 新潟。

4) 加藤功, 小池吉郎, 青柳優, 川崎匡, 佐藤悠, 水越鉄理: 猫における温度性眼振の抑制解除現象と視運動機能, 日本耳鼻咽喉科学会, 1978. 5, 新潟。

5) 加藤功, 青柳優, 小池吉郎, 川崎匡, 佐藤悠: 温度性眼振への光の抑制効果に対する脳幹の態度, 日本平衡神経科学会, 1978. 11, 奈良。

6) 神田武政, 丸山直滋, 岡田美保子, 岡田正彦: 加令による運動機能の変化——diadochokinesia test, tapping test, articulation test の定量分析, 第55回日本生理学会, 1978. 4, 新潟。

7) 本間信治, 鈴木俊雄, 村山智, 大塚正徳: 虚血性脊髄性固縮ネコ脊髄のアミノ酸とP物質, 日本薬理学会, 1978. 3, 仙台。

8) 本間信治, Rovainen, C. M. : ヤツメ脊髄巨大介在ニューロンに対するグリシンとGABAの作用, 第55回日本生理学会, 1978. 4, 新潟。

9) 本間信治: ヤツメウナギの三叉神経運動核について, 第25回生理学中部談話会, 1978, 9, 金沢。

10) 川崎匡, 佐藤悠, 加藤功: 温度性眼振の視覚性抑圧に関与する神経経路について, 第25回生理学

中部談話会, 1978. 9, 金沢。

3. 原著

1) Kawasaki, T., Kato, I., Aoyagi, M., Sato, Y., Koike, Y. and Ino, H. : On the role of the brain stem in the visual suppression of caloric nystagmus., Vestibular mechanisms in health and disease, ed. by J. D. Hood, p. 247-253, 1978. Academic Press (London).

2) Homma, S. : Organization of the trigeminal motor nucleus before and after metamorphosis in lampreys. Brain Research **140** : 33-42, 1978.

3) Homma, S. and Rovainen, C. M. : Conductance increases produced by glycine and γ -amino butyric acid in lamprey interneurons. J. Physiol. (Lond.) **279** : 231-252, 1978.

4) Aoyagi, M., Kato, I., Sato, Y., Mizukoshi, K., Sato, T. and Ino, H. : Neurotological studies on methylmercurial intoxication in Macaca irus., Vestibular mechanisms in health and disease, ed. by J. D. Hood, p. 207-210, 1978. Academic Press (London).

5) Kato, I., Sato, Y., Aoyagi, M., Mizukoshi, K., Watanabe, Y. and Ino, H. : Four cases with polyphasic positional nystagmus. ibid. p. 224-226, 1978.

6) 佐藤悠, 川崎匡, 加藤功, 水越鉄理, 早野信也: 温度性眼振の固視抑制と眼球運動機能について, 日本耳鼻咽喉科学会会報 **81** : 106-112, 1978.

7) 五十嵐淑晴, 水越鉄理, 細川智, 加藤功, 川崎匡, 佐藤悠: 上眼瞼向き垂直性自発眼振の発現機序について, 平衡神経科学 **37** : 68-72, 1978.

8) 岡田美保子: 小型計算機で稼動する対話型ファイル処理システム 情報処理 **19** : 686-689, 1978.

9) 岡田美保子, 神田武政, 丸山直滋, 白川健一, 岡田正彦: Diadochokinesia test の定量分析. 神経内科 **9** : 70-72, 1978.

10) 佐藤悠, 加藤功, 水越鉄理, 早野信也: 開眼正中固視時に消失する交代性眼振症例. 耳鼻咽喉科 **50** : 379-382, 1978.